

件名	第2回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会		
日時	平成23年8月23日 13:30～16:00	場所	川のおもしろ館 研修室
出席者	<p>【出席委員】</p> <p>石崎委員，大野委員，寺島委員，成田委員，松倉委員， 松野委員，丸山委員，宮崎委員，八重樫委員</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>旭川開発建設部 5名</p> <p>【事務局】：旭川市土木部公園みどり課</p> <p>吉田課長、太田主幹、吉田係長 星主査、濱地主任、高田 (株)富士建設コンサル 3名</p>		
資料	<p>(資料) 第2回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会</p> <p>(現地見学 資料1) 現地見学ルート図</p> <p>(現地見学 資料2) かわまちづくり整備概略計画図(案)</p>		
<p>《概要》</p> <p>1.開会 2.委員長挨拶 3.現地見学(常磐公園、河川空間、施設周辺区域)</p> <p>【議事】</p> <p>委員長が議事進行。事務局より「前回懇談会の確認」、「常磐公園改修事業の検討課題の整理」および「常磐公園改修事業の整備内容の検討」の概要説明。</p> <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区全体の河川の堤防の安全性を確認していく段階で、堤防に脆弱な部分があることがわかり、そこに被害があれば中心市街地に大きな被害を及ぼす可能性がある。その危険性を避けなければならないので、現在の堤防の幅や土量がともに脆弱だという認識が前提に必要。脆弱な部分に幅と量を確保するには、厚みを増して土量も増やしていかなければならない。</li> <li>・大きな木も茂っていて堤防にかかっている部分は、細い堤防になっておりそこを厚くしなければならない。そのためにどう整備していくか。今まであった木を見直して、まずい木は世代交代する必要があるのか。大事な木は残していきたい。今までの歴史も踏まえて整理しながら個別に丁寧にやっていくということを頭に入れた上で、そこはやはり危険なので、堤防そのものの危険を回避するという事が前提にあり、その上で公園に接するなら接するなりの整備があるのではないか。</li> <li>・課題の話に入る前に、委員の皆様は現地見学で見てきた感想や資料の中身も含めて話を聞きたい。その後はどうしていったらいいかという案や、それに対するご意見を聞いていく。</li> </ul>			

(委員)

- ・堤防が脆弱になっていることを認識の前提にすべきという意見があったが、前回の文化芸術ゾーン検討会議の時には、堤防をどういうふうにするかということは、河川改修事業と関連はしてくるけれど、そこが前提になっているということではなかった。事務局の説明で緩傾斜は前回の会議で決まっているという話をされたが、前回の会議の時には基本的な骨格や骨組みの話をして細かい話については次の段階の話し合いになるということだったので、今回の原案についてはその時の骨格や構造を元にして一つのたたき台の案として理解していいか。
- ・今、見てきた公園の中はかなり年数の経った老木があり、ウレタン樹脂が詰め込まれて無惨な姿になっているものがあった。その反面、健全な姿で歴史を感じさせる良い木も残っている。
- ・築堤のところはすばらしい木もあり、路肩にもそこにふさわしい良い木がある。仮にこの堤防案が確定されると、川と公園との間の緑が無くなってしまい、景観が大きく変わってしまう。
- ・川と公園の一体化というのは二つの意味がある。川の自然と公園の緑は、できるだけ近い距離で一体化させておく必要がある。現状を見ると、河川敷がコンクリートで塗り固められている。もう少し違う形で自然との一体化が図れないかと言ったが、その木が無くなってしまうと、その考えも遙かに遠のいてしまう。
- ・基本課題の中に、公園全体の緑をどういうふうにするのかという大きな課題を取り入れる必要がある。あげられている課題では、樹木が薄暗いイメージだとか暗い雰囲気になっているというようなマイナス面が取り上げられているが、そうでない部分もある。

(委員長)

- ・色々な形で隣り合うところに線引きを一本のラインだけで引くのではなくて、お互いに干渉し合うゾーンがこれからの時代は重要だということが指摘されているが、まさにそのような役割を果たしている樹木が一気に消え去ってしまう。景観が変わることは間違いないということをふまえて、緑の位置づけについては話し合いたいと思う。

(委員)

- ・現地見学で公園に行ってきたが人がいない。1時間歩いて誰にも会っていない。
- ・新橋の方も補修をしていたが、奥の広い空間も木がいっぱいで、人も行かなければただの木が植えてあるだけのものになっている。
- ・池は休む所が無い。芝生や座って何かをする空間も無い。池の所に座って池を眺めても池が汚い。人が来ない原因はこういうところにあるのではないのか。
- ・花もあったが、水が足りないのかみんな枯れている。草を刈るなどの公園の整備はされているけれども花壇の管理はあまりされていない。
- ・問題の多いこんな公園に木をいっぱい残して何になるのかと思う。
- ・堤防の方は開発局とうまく連携してやってくれれば問題は無い。

(委員)

- ・今の常磐公園で整備しなければいけないところはもちろんある。木も生き物なので、駄目なものや危険なものは考えていかなければならない事も重々わかっている。堤防にあ

- る木が無くなることで、景色がまったく変わってしまう。イメージ図を見ると、カフェなどが描かれているが、もし「水辺にカフェを造りたい」「バスが入ってきて、人もたくさん来てほしい」というふうになるならば、旭川市のシンボルであるこの公園の歴史を残してきた木を残しながらゆったりとしたソフトな環境を次の世代に残してほしい。
- ・常磐公園の中には多種多様な木があり、暗いというならそこは切らない方法で考える。切る木はあっても残せるものは残す手段が絶対あるはずだと思う。
  - ・全てをハードな環境にするのではなくて、ハードなものや歴史文化のゾーンであるならば今の環境の中で整備できる部分は整備しても、自然である川と森、旭川市の真ん中にある環境を次の世代に残したい。
  - ・切ってしまうしてから考えても遅い。今まで続いてきたものがゼロになってしまう。それを見た子供達はそれが自分たちのふるさとだと思うかもしれないけれど、決して豊かではないと思う。時代を共有してきてそれをつなく、それがこの公園の役割であると思う。なので、全体を見てそのつながりと、次世代の子供達に私たち大人が何を残していくかということを考えていきたい。

(委員)

- ・公園を利用している立場で話すと、樹木は茂っていて公園の利用も天候が良いときと悪いときで人数が違うと思う。天候が良いときは、うす暗いといわれている場所も歩くとき涼しい。街の中で樹木が茂っていて涼しいところはそう無い。あるのは神楽岡公園ぐらいだが、同公園内で樹木があるところは少し離れていてなかなか利用しにくい。
- ・身近な子供達と話していると、カムイの杜が人気である。あそこは子供達を安心して遊ばせることができるが樹木が全然無い。色々な設備はあるが、くさはらで人が暑いなかいれる場所ではないということを感じた。
- ・残せるものは残して、次の世代に残っていくものをきちんと大事にしたいと思った。

(委員長)

- ・普段使われていて木陰が涼しいというのは実感した。土埃が上がる広場の真ん中には暑いときには誰も行かないというのはその通りである。街の中に緑が少ないというのも、ご指摘の通りだと思う。

(委員)

- ・今回、初めて常磐公園全体を歩いた。自由広場は昔こんなに色々なものが無く、野球などをしたり池ではタニシ取りなどもしたけれど、その時から見るとイメージが変わっている。当時から見るときれいになっていると思った。
- ・洪水の報道を見るとそういうことが起こる前に手を打つのが国の政策なのだと考えている。
- ・木については、自然界で樹木更新がある。老木は倒れていき、そこに新しいものが生えていく。そこに代わる物を植えるのであればそれはそれで良いと思う。植林した方が良いのか自然の方が良いのか、みんな自然の方が良いというけれど、実際に行くと植林したもののほうが行きやすいし、散歩しやすいという統計を見たことがある。全てが自然の手つかずのまま樹木更新を待つのかという話もあるが、それでは市民が憩う場所では不適當とも考える。

- ・昔の公園はきれいなイメージではなく、野球が出来てどろんこになって遊べればいいというイメージだった。今はすごく整備されて使いやすくなったが、子供が少なくなって遊んでいないし、街の中の人も町内で聞くと朝に散歩をしているということは聞くが、公園に何かしに行こうなんてことはお祭りの時と花火大会の時ぐらいかなと思うので、公園を上手に利用しようという市の計画は頑張してほしい。

(委員長)

- ・公園に対して昔と変わってないという印象を持たれる方も随分といらっしゃると思うが、随分変わったという意見もある。

(委員)

- ・この事業は、旭川市民、又は観光客の方に楽しんでいただく空間作りをし、中心市街地を再生するという事だと思う。
- ・昔は常磐公園も市民や観光客がたくさんいてにぎわっていたが、今日も歩いて人がいなかった。池の水がすごく汚く、ボートに乗っている人が誰もいなかった。昔は待ち時間があるくらい皆が楽しみにして憩いの場になっていた。汚い池でボートに乗りたくないという場合もあると思うので、水が流れるようになってきれいな池が出来ればまたボートもいいなと思うし、観光の皆さんも来ると思う。
- ・多目的広場の問題は、今は土になっていて、風が吹くとほこりが舞うとか、水たまりが出来るとあるが、美術館の前が芝生になっているので、全部を芝生にして一体化し、何か催しがあるときはそこに座って行うなど検討すべきかと思う。
- ・暗い雰囲気のところは、テニスコートや池から流れてくる水も汚かったし、木が鬱そうとしているので照明を付けるなどで明るくして、公園の裏側の市民の方も入って来やすいように改修したらいいと思う。
- ・案内板がわかりにくいようで、よく美術館の場所などを聞かれる。地方から来る観光客も案内板が無いと言うので、案内板や入り口をわかりやすくしたらいいと思う。
- ・施設関係は、図書館は新しくきれいになった。公会堂も音響はずばらしく良いと聞いているので、外装などをもう少しきれいにして、公園とマッチするような建物にすれば利用価値も上がるのではないかと思う。

(委員長)

- ・多目的広場を全面芝生にとあったが、緑化することによって随分雰囲気が変わるのではないかというところである。

(委員)

- ・「木があっても人が集まらなかったら何もならない」という意見に、確かにそうだと思う。
- ・緑について、薄暗いイメージの箇所が存在するということだが、今まで公園の樹木に対する管理の仕方がなっていないと言ってもいいと思う。

例えば、堤防は根群の楓と桜が主体だが、楓は外国から来た木で非常に防御力が強い。根本からわさわさと藪になっているが、あれをきれいに処理すれば木元はたいした本数がないのでスッキリとすると思う。

全体の公園の整備の仕方が非常にまずい。このことで暗いイメージとかマイナスイメージが強くなっていると思う。

- ・植樹に対する計画が統一性を欠いている。「空いているからここに木を植える」という場当たり意識がある植え方をしている部分が非常に多いということが過去の実績から見受けられる。その結果、みんな細い木になったり、桜を植えても枝が生えないという状態になる。そのことによって、枝枯れが早く起きるという状態なので、根本的な取り扱いについてもう一度見直していかなければ、将来も同じような問題が起きてくると思う。
- ・にぎわいの問題は多目的広場で土埃が舞うという話であれば、私も芝生にした方がいいと思う。子供達がサッカーの練習をするにしても非常にいいと思うので、そういうことをやってほしい。にぎわいをどのように取り戻すかということは、意外と話題にならないけれど、もう少し真剣に考える必要があると思う。日常的にこの広場を使えるようなイベントなどができないのか、何もなければ人は集まってこないだろうと思うので、イベントをどのような企画で形式的にやっていくのかということを考える必要があるのではないかと思う。
- ・動線の関係は、美術館の周辺を中心にモニュメントや彫刻が多くなっているが、動線を回廊として回ったときに、売店の辺りを散歩してもさっぱり見栄えがない。モニュメントや彫刻の配置を、もう一度全体的に見直す必要があるのではないかと思う。  
堤防の方の新しいゾーンにモニュメントをという話があるが、そちらへ行く回廊としての動線を考えてみる必要があると思う。

(委員長)

- ・基本的な計画の重要性で、問題が起きたから対応していくという姿勢を見直し維持管理の計画や今後の植物に対する計画というのを考える必要がある。

(副委員長)

- ・堤防の幅員を拡幅することに伴う景観の変化について、河川の治水の観点からも考えなければならぬものと思った。災害につながることもあり、専門家が考える護岸対策の必要性についてそれなりの重みを置かなければならないと思う。そうした要因から堤防の拡幅がやむを得ないならば、その工事によって景観に影響するかを予想しながらよりよい修景すべきであろう。樹木について残せるものは残すと共に、ケースに応じて、計画や管理体制などを見直していく必要もあるのではないかと感じた。
- ・園内の一部について木葉が繁りすぎて暗いとする指摘があったが、住民の方にしてみれば最も指摘であり、その対策について考慮すべきであろう。
- ・常磐公園へのアクセスでは、夏場の自転車での乗り込みも多いのではないかと、という思いがある。自転車利用の観点からの道路計画もあって欲しい。堤防上の道路や各入り口からの出入りがある。
- ・公園内の動線について「芸術の回廊」というコンセプトで周回性をもって計画することを理解するが、美術館と図書館の間のラインは強化すべきではないかと思う。道立美術館と連携を深めた形の公園の利用が望ましいように思う。
- ・案内板など公園内のサインについて、それなりに問題もあることと思う。今日見学して改めて、公園内にあるサインやモニュメントに様々な形態があることに気付かされた。

(委員長)

- ・緑の位置づけが重要だという認識は少なくとも街の全体像にとって、ここがゼロに

なることは想像もつかないし、それをしようということではない。その景色がすごく変わるかもしれないけど、ここは大事だという共通の認識は、前提として持っていなければいけない。この公園の特徴は豊かな河川の残りの緑があることで、管理の悪い木が残ってしまったという見方もあるが、あるものを大切にしたい。

(委員)

- ・今言われたように、あるものを大切にするという姿勢が大事だし、そのことを次の子供達に示すべきだと思う。
- ・堤防が脆弱で強化するなら良い木は残して階段の部分を整備してもらいたい。どうしても広げていかなければならないのであれば河川側の方に広げることにはできないのか。
- ・冬になった時に、豊富な木が全部無くなって石狩側の冷たい風が公園の中に入っていくような環境になると、常磐公園内の樹木に対する影響はどうか。

(委員長)

- ・難しい話ではあるが、プロは市民の思いをきちんと考えてほしいという意見。考えることは大事だと思うし、例えば、樹木の専門家と管理の専門家など色々な人達が議論する場があって、市民の思いをくみ上げることが大切である。

(委員)

- ・緑の保全を考えたいという意見があったが、改善するところは改善し、保全するものは保全するという形で持って行けるのではないかと思う。
- ・にぎわいを作るということは、人が集まるということ。人がなぜ集まるかということ、公園の場合は「休まる」とか「あそこに行くと楽しめる」とか『癒しの部分』が大きな要因になると思う。その時に要素は二つあり、一つは公園そのものが魅力ある存在であるということ。もう一つは緑と同じように周辺との結びつきがどうなっているか、動線が公園の中の動線だけでなく、市中心街からの動線がどういうふうに結びついているかということが大事な要因ではないかと思う。その辺りを考えながら整備の方向を検討していけば意見が集約出来るのではないかと思う。

(委員長)

- ・美術館を回る回廊というよりは主軸を一本づくり、そこから視線をとりながら街との関係性を整理していく。回廊といったときに何を観て歩くのか。あまり様にならないものになるくらいだったら美術館と図書館、公会堂の辺りを主軸のラインにして、そこを景観サインも含めて整備していこうというところもある。

(委員)

- ・緑の質をどう高めるかということが一番大事で、この木を切るとか切らないとか、この木を将来残したらと言ってもだんだん質は落ちていくので、ある時期には切って新しいものを植えなければならない。いつも「大事だ」と言っていくと老木ばかりが集まった森になってしまい、一定の時期になると手に負えなくなる。先ほど計画性の話もしたが、緑の質をどうやって高めて維持していくかという根本的な考え方がなければ、単に切るのがもったいないからといっても、それが将来の為になるのかという判断力がこれからは必要なのではと思う。

(委員)

- ・私が常磐公園で遊んでいた子供の頃は、こんなに木は多くないし天文台の方も木は無かった。あずま小屋も無く子供達がスキーなどで遊んでいた。公園の中の池はスケートリンクになっていたし、そういうもので常磐公園の中で遊んでいたけれど、これほどまでに木が茂って暗くなったというところが、小さい頃にあった公園と今の公園では全く違う。60年間木は切っていないと思うし、台風で池の所のポプラの木が折れたが、立っていたときの風景と今の風景とを公園を知っている人が見ても、昔の風景を覚えているという人は多分いない。ボート小屋の所もポプラの木が折れたので、広くなり景観が良くなっている。木を切れとは言わないが、枝を半分くらいにするとか、直射日光が入るようにするとかしないとこのままでは真っ暗闇になる。その点を考えて木を植えたり間引きして明るくするなどしたほうがいい。
- ・旭山動物園に観光で来ても、観光客は旭川に宿泊しない。例えば常磐公園に魅力的なものがあって旭山動物園に観光で来た人たちが次の日に見てみようとかで観光客が移動しないようなものを考えればイベントをしなくても自動的に常磐公園に来て旭川に泊まってくれるだろうが、常磐公園でイベントをやるにも、公園内は火を焚いては駄目だし何も出来そうにない。それよりは、花を植えて池をきれいにしてボートにも人が集まるようにするとか、そういう考えを持たないと人が来ないのではないかという気がする。

(委員長)

- ・今後個別計画としてどのような整備をしていくか意見を伺いたい。

(委員)

- ・中心部からの動線として七条緑道をもう少し整備して、沿道の方も活用できるような形にしてはどうか。七条緑道は、ホテルが集まっていて観光客などが泊まっていることがかなり多い。朝は、朝食前にホテルから彫刻を見ながら常磐公園に入ってきて散歩して戻っていく観光客もいるので、公園の池をきれいにして遊べるような池にしたり、彫刻をうまく配置してホテルに泊まっている観光客にも楽しんでもらえる公園にしたい。
- ・一般市民では朝のラジオ体操や散歩をしている人を、七条緑道からうまく誘導できるような、常磐公園の中の整備を考えていきたい。

(委員)

- ・公会堂の機能を強化するということ。公園の利用者が少ないということで、公会堂も人を呼ぶ行事とか、採算性があってないのではないかと思う。公会堂は昭和33年10月に竣工し、53年経っている。役割を終えた建物は違う目的に作り直すか、壊してしまった方がいいのではないか。公会堂は過去に検討する機会が何回かあったのではないかと思う。公園の入り口がわかりにくいとか図書館前の交通問題も課題になり、議題の中であの辺りを新たにメインの入り口にしたいとうたっている。

例えば公会堂を壊した場合、駐車場にすると河川敷との動線でここがメインの入り口になったときに有効に利用できるのではないか。公会堂の耐用年数はどうなっているのか。人を呼べる行事がそこで出来るか。お金が入る行事がそこで出来るかと言うことだが芸能人はここ数年使っていない。一昨年に、公会堂で吹奏楽の地区予選をやった。地方の人から文化会館と比べると公会堂は設備全体が劣っているような感じだと伺った。

- ・常磐市民ホールやクリスタルホールが出来た時に公会堂を無くしても補完できることを考えて後の建物を考えていたのか。市が、役割を終えた建物（公会堂）を壊す為に新しい建物（大雪クリスタルホールや常磐市民ホール）の中に機能を吸収することを考えながら建てたのかどうか疑問である。

（委員）

- ・近々、北彩都に大きな公園ができ、それが出来た場合に、常磐公園と似たような性格の公園が出来るのではないかと。その辺の位置づけを市はどのように考えて利用しようとしているのか。単純に似たものをつくと利用者も分散してしまうのではないかと。

（委員）

- ・堤防の整備について、階段側に堤防を拡張することは出来ないのか。次回にお話ししていただきたい。

（委員）

- ・河川用地が常磐築堤に関していうと、左岸の法尻からどれくらいまでなのか。
- ・常磐築堤が河川の治水の立場からみてどういう現状の認識をもっているのか。二点を次回以降に示してほしい。

（委員）

- ・河川敷の堤防と堤防の間の流れは、機械で流れを変えることは出来ないのか。流れを片方に寄せて河川敷にスペースを作り、野球場やテニスコートやサッカー場にすることは出来ないか。石狩川と牛朱別川が合流しているところなので難しいとは思いますが、公園との連携という話の中でそういうことが可能なのかどうか。

（委員長）

- ・元々この辺りは川が蛇行していたところを整備してきて今の形になった。

（委員）

- ・全体の回数が限られているので、論点を整理して議論するところを収束していかないといい議論が出来ないのではないかと。

（副委員長）

- ・公園の入り口部分の整備というのは議題には出なかったが、視覚的な問題とか実際に動線をコントロールするにはウエイトの大きい場所じゃないかなと思う。検討したときに、市街地とどうつながっているのかという部分も考えた方がいいのではないかと。

（委員長）

- ・河川との関係がテーマだったのと同じように、周辺の道路や住宅地などその辺りの関連も考えた方がいいという指摘もあった。
- ・この場で皆さんと集まって会議するという意味は、色々な議論を洗い出し考え方の整理を求められており、どう次の世代に引き渡していくのか真剣な議論が必要だと思う。
- ・色々な話題を含んでいる公園ということで、与えられた時間の中で、今日は具体的なものを見て感じてわかりにくいところは整理されて来ていると思う。

- 以上 -